令和７年度　村椿小学校アクションプラン　―２―	
重点項目	学力向上
重点課題	**「よく考える子」の育成【きりっと　つばきッズ】**
現　　状	・相手の話を聞いて自分の考えをハンドサイン等で表したり、様々な場において自分を表現したりする児童が増えてきた。それでも、まだ、自分の考えを言葉で説明したり、思いのままに表現したりすることに苦手意識をもつ児童が少なくない。また、友達と関わり合い、自分の学びを自己調整していくことにも課題がある。 ・相手の話を静かに聞いている児童が多い。しかし、全体での話合いでは考えの深まりに課題が見られる。
達成目標	・強調週間を設け、自分の考えを表し（発言、ハンドサイン等）、<u>伝えることができる</u>児童の割合が全体の 80%以上になることを目指す。
方　　策	・「つばきッズの学習ルール（下・上学年用）」「目指せ！聞く･話すウルトラ名人」「声のものさし」「ハンドサイン」等の学習ルールに関わる資料を各教室に掲示し、村椿小の学習ルールとして全校で統一して指導する。 ・相手の話を考えながら聞くことで、自分の考えをもつことができ、考えを表すことができる。その際、児童が考えながら話を聞いているかをハンドサイン等で細やかに把握し、意図的指名等により児童が考えを表す場を設ける。一人一人の考えから、全体の考えの深まりを目指し、「考えながら聞く」ことを意識させるとともに、学習の成就感を味わわせるよう努める。 ・玉椿集会等の行事は全校に向けて自分の考えを発信する大切な機会と捉え、一人一人が自信をもって発表できるように学級と家庭で練習を見届けていく。また、「聞くこと」「話すこと」における自己調整ができるように、発表後に振り返りの場をもつ。 ・児童一人一人のよさや特技に目を向け、自分を表現することに心地よさを感じられるような場の設定に努める。（ミニコンサート、各種大会･発表、作品制作･展示、ステージ発表等）
外部評価者	学校運営協議会委員
公開の方法	学校便り、ホームページによる公開
具体的な取組状況	・「相手に伝わるように話す」「考えながら聞く」ことを意識させるために、各教室の掲示物「声のものさし」を一新し、より具体的に示して村椿小の学習ルールとして全校統一して指導した。 ・授業において、全員参加を目指した「発表の機会を増やす取組」や、児童の興味･関心を意欲の高まりに変換させた「発言したくなる取組」、ペア･グループ活動に話型を取り入れた「発表への自信をもたせる取組」等、各学年の児童の実態に応じて工夫を行った。 ・伝統行事である玉椿集会に加えて、全校の前で発表する機会（全校短歌大会･各学年からの音読や英会話の発表･作品掲示･なわ跳び名人の技披露･有志による季節のコンサート等）を増やしたことで、より多くの児童が様々な面でよさを発揮することができた。回数を重ねるごとに発表に意欲的な児童が増え、昨年度よりも多くの児童が、大勢の前で自分を表現する心地よさを味わった。「自分らしさ」「自分のよさ」に改めて気付いたり、一歩上の自分に向かってチャレンジしようとしたりする児童の姿も見られた。
達　成　度	・「できるようになったかな」チェック週間（７月と 11 月に実施）において、２回目の 11 月の調査では、できていた（５日のうち４日以上が〇だった）児童の割合は、「先生や友だちの話を、相手の方を見て、最後までよく聞くことができた」が 92%、**「学習中に、自分の考えを表し（発言、ハンドサイン等）、伝えることができた」が 84%だった。**この２項目について、いずれも目標の 80%を上回った。 ・年間を通して行った来校者や校外学習先の方々へのアンケート結果では、「話す人の方を見て話を聞いていた」「進んで発言しようとしていた」の項目で、「よくしていた」「概ねよくしていた」との評価が 90%と、よい結果であった。
評　　価	A
外部評価者の意見	授業や集会での様子を見ると、子供たちが率先して発言をし、自分の気持ちを伝えていたことがすばらしいと感じている。今後も子供たちの興味・関心を高め、子供たちが自ら発言したくなるような取組を継続していくことが大切である。
次年度へ向けての課　題	・「聞くこと」「話すこと（表すこと）」共に目標の 80%を達成したが、「話すこと（表すこと）」は「聞くこと」より８%程度低く、より向上を目指すための方策が必要である。児童の学習意欲の高まりと安心して発言できる環境は、活発な自己表現を生み出すと考える。引き続き、教師の授業力向上と温かな学級風土づくりに努める。併せて、名前を呼ばれたらはっきりと相手に届く声で返事をする、気持ちのよい挨拶をするなど、日常生活から相手を意識して声を発することを大切にしたい。日頃からの取組が効果的であると考えるので、学校だけでなく、家庭や地域にも協力をお願いする。

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった）